

北海道知事 高橋 はるみ 様

8月17日、泊原子力発電所が、再稼働するというニュースを聞き、大変、驚いています。

高橋知事は経済産業省の再稼働推進の動きに対し、「地元軽視である」と抗議をされましたが、それから数日後、すでに破綻が明らかな安全基準の見直しもないままに「安全だ」という国の言葉を受け、ストレステストも行わず再稼働を容認されるとは、まったく理解に苦しみます。

3月11日の大震災に続く、福島第一原発の事故は、日本中を放射能の恐怖に陥れています。震災から5か月を経過した今なお、福島第一原発は、収束の見通しも立たず、放射性物質を出し続けているというのに、泊原発3号機を再稼働させるとは、知事は、北海道の住民の命を何と考えているのですか？ 福島のみならず、25年たったチェルノブイリさえ、いまだ収束の見通しは立っていないのです。もし、いったん、事故が起これば、北海道だけの問題に収まりません。放射能汚染は、日本全国、地球上に広がっていくことは、今回の事故で、明らかになったばかりではありませんか？

東洋大学の渡辺教授によれば、「泊沖には最低でもマグニチュード7・5の地震が起こりうる未知の活断層がある」とのこと。福島の場合も、原発は、津波以前に地震で破壊されたことが発覚しております。泊原発でも、いつなんどき、大きな地震が起きるかわかりません。誰がどう考えようとも、活断層の上や近くで原発稼働は危険すぎます。そもそも、そのような場所に原発が許可されたことが間違いです。即刻、泊原発は停止すべきです。

また、安全な食料を道民が自給し、大都会や被災地に供給するという観点からも、北海道は、原発から脱却すべきです。この夏、九州にも、福島や関東の子供たちが、大勢、避難してきております。もし、九州や北海道が汚染されれば、被災した子どもたちも逃れるところがありません。北海道と九州は、安全な食べ物の生産地であり供給地です。残された生命線だと私たちは思うのです。原発ではなく、食料自給率200%の北海道ならではのメリットを日本全体のために生かす時だと考えます。

3・11以降、今や日本の原発の安全神話は完全に崩壊いたしました。今こそ、すべての原発の見直しをはかるべき時であり、再稼働を急ぐ時ではありません。電気を得る方法はいくらでもあります、北海道という素晴らしい環境を無くせば取り返しがつきません。どうか、泊原発3号機の稼働を中止し、北海道民が、安心して住める北海道を守ってください。

日本のため、世界のために、未来の子どもたちのために、命に敏感な女性知事であるなら、なおの事、必要な決断だと思います。経済より命を優先すべきです。豊かな自然の恵みと共に生きる事こそが北海道を、持続可能に活かす道です。これ以上の悲劇をくり返す必要はありません。更なる犠牲を生む可能性の芽は、摘むべきです。泊原発3号機を即時停止してください。

2011年 8月18日

熊本・原発止めた女たちの会

連絡先：〒861-8039 熊本市長嶺南 7-8-115 永尾佳代